

インフォメーションミーティング

2006年度中間決算について



株式会社 横浜銀行

2006年11月27日

“お客さまから強く支持され、進化を続けるベスト・リージョナルバンク”

1. 当行の業績

- ◇ 業務粗利益
- ◇ 経費・OHR
- ◇ 業務純益
- ◇ 与信費用
- ◇ 不良債権比率
- ◇ 当期純利益
- ◇ Tier I 比率
- ◇ 株主への利益還元策

2. 営業部門の実績

- ◇ 営業戦略の全体像
- ◇ 神奈川県マーケットの成長性
- ◇ 神奈川県内シェアの推移
- ◇ アセットビジネス
(法人、個人、預金、預貸金利鞘、金利感応度)
- ◇ フィービジネス
(投資型商品、私募債・シローン)

3. 事業戦略

- ◇ 東京西南部への進出
- ◇ 神奈川県内のサービス・チャネルの充実
- ◇ 新たな業務・新サービスの展開
- ◇ 提携の概要
- ◇ 「Go Forward!」の進捗状況

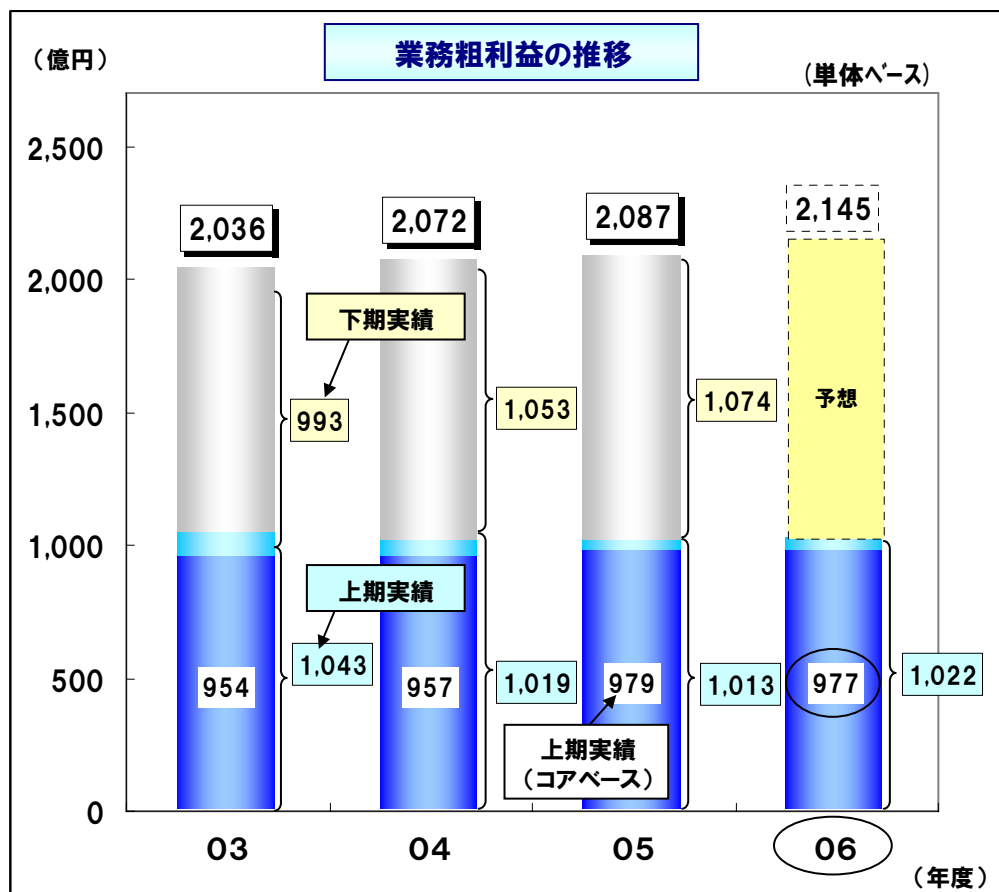
1. 当行の業績

横浜銀行
Bank of Yokohama

1. 当行の業績

(1)-①業務粗利益

- 06年度上期の業務粗利益は、前年同期比+9億円(+0.8%)の1,022億円。
- コアベース(国内資金利益+国内役務取引等利益)では、前年同期比△2億円(△0.2%)の977億円。
- 06年度の予想は2,145億円(前年度比+58億、+2.7%)。



前年同期との比較

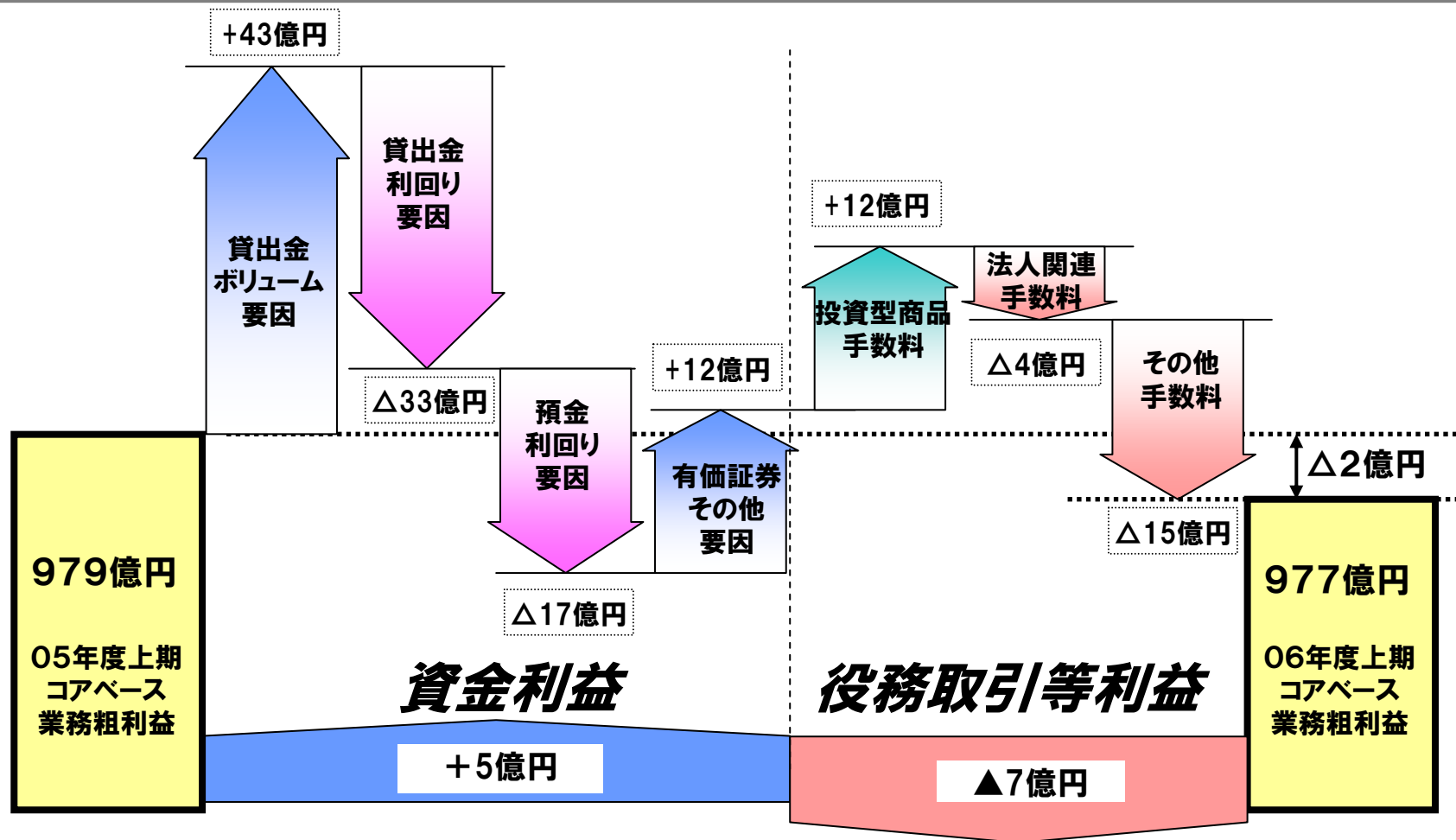
(単位:億円)

	05上期 (実績)	06上期 (実績)	増減
業務粗利益	1,013	1,022	+9
国内業務粗利益	993	1,005	+12
資金利益①	802	807	+5
役務取引等利益②	177	170	△7
特定取引利益	1	4	+3
その他業務利益	11	22	+11
国際業務粗利益	19	17	△2
コアベース①+②	979	977	△2

1. 当行の業績

(1)-②業務粗利益増減要因分析(コアベース)

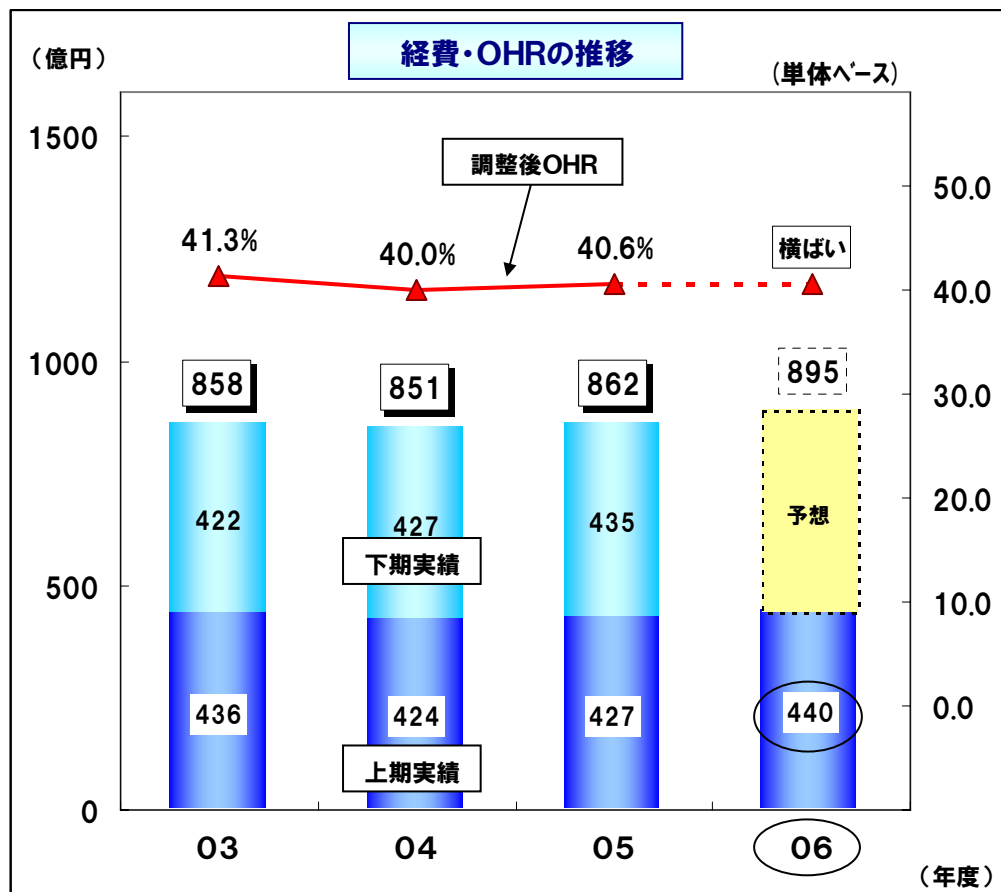
- 貸出のボリュームは増加するも、預金利回りの上昇が先行したため、資金利益は前年同期比 **+5億円** に留まる。
⇒下期は、貸出金利回り上昇により、資金利益は上期比 **+60億円** (年度通期で前年度比+31億円) を予想。
- 投資型商品手数料は増加するも、法人関連手数料等が減少し、役務取引等利益は前年同期比 **△7億円**。
⇒下期は、上期比 **+31億円** (年度通期で前年度比+2億円) を予想。



1. 当行の業績

(2) 経費・OHR

- 06年度上期の経費は、**440億円**(前年同期比**+13億円**、**+3.1%**)。調整後OHRは、**43.3%**。
- 06年度の予想は、**895億円**(前年度比**+33億円**、**+3.8%**)。
- トップライン拡充に向け、営業関連投資・経費は増加基調。ただし、OHRは**41%**程度を維持していく。



前年同期との比較

(単位:億円)

	05上期 (実績)	06上期 (実績)	増減
経費	427	440	+13
人件費	149	155	+6 A
物件費	247	253	+6 B
税金	31	32	+1
調整後OHR(%)	42.0	43.3	1.3

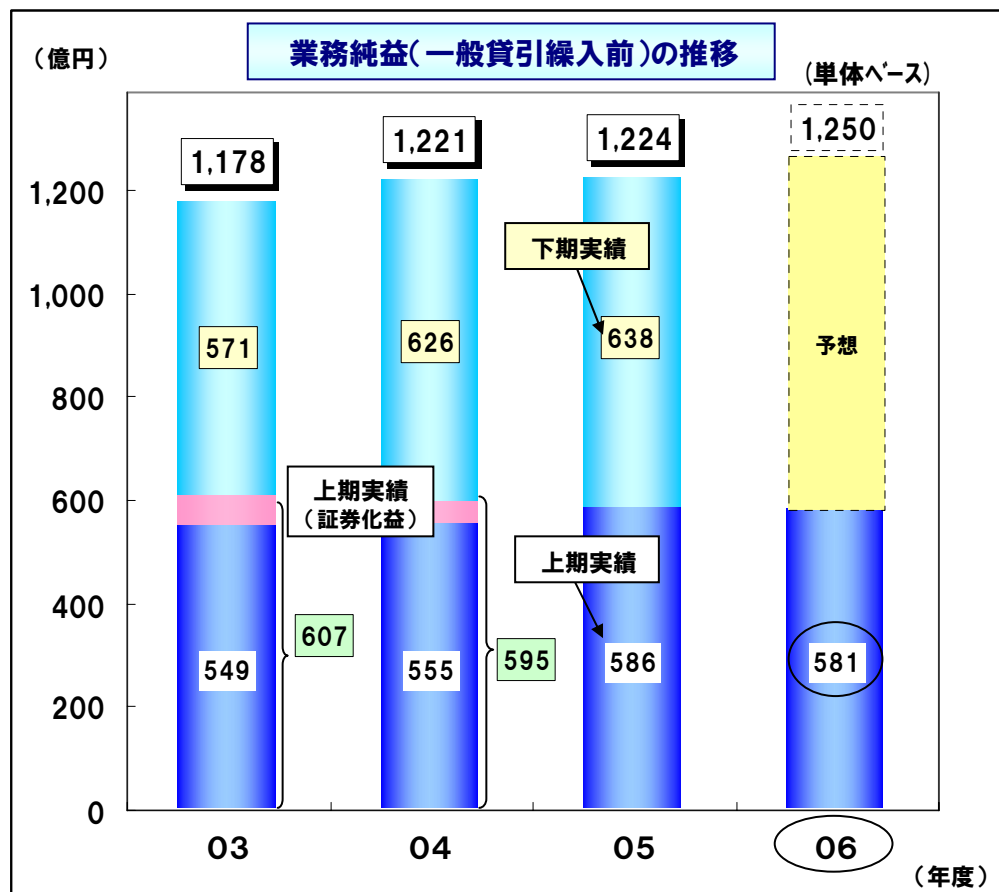
「経費」の主な増減要因
 A 人員の増加などによるもの
 B 新規出店・IT関連投資の増加などによるもの

(注)調整後OHR = 経費 ÷ 業務粗利益(債券5勘定戻 & 債券デリバティブ損益調整後)

1. 当行の業績

(3) 業務純益(一般貸引繰入前)

- 06年度上期の業務純益は、前年同期比△5億円(△0.8%)の581億円。
- 06年度の業務純益の予想は、1,250億円(+2.1%)。



前年同期との比較

(単位:億円)

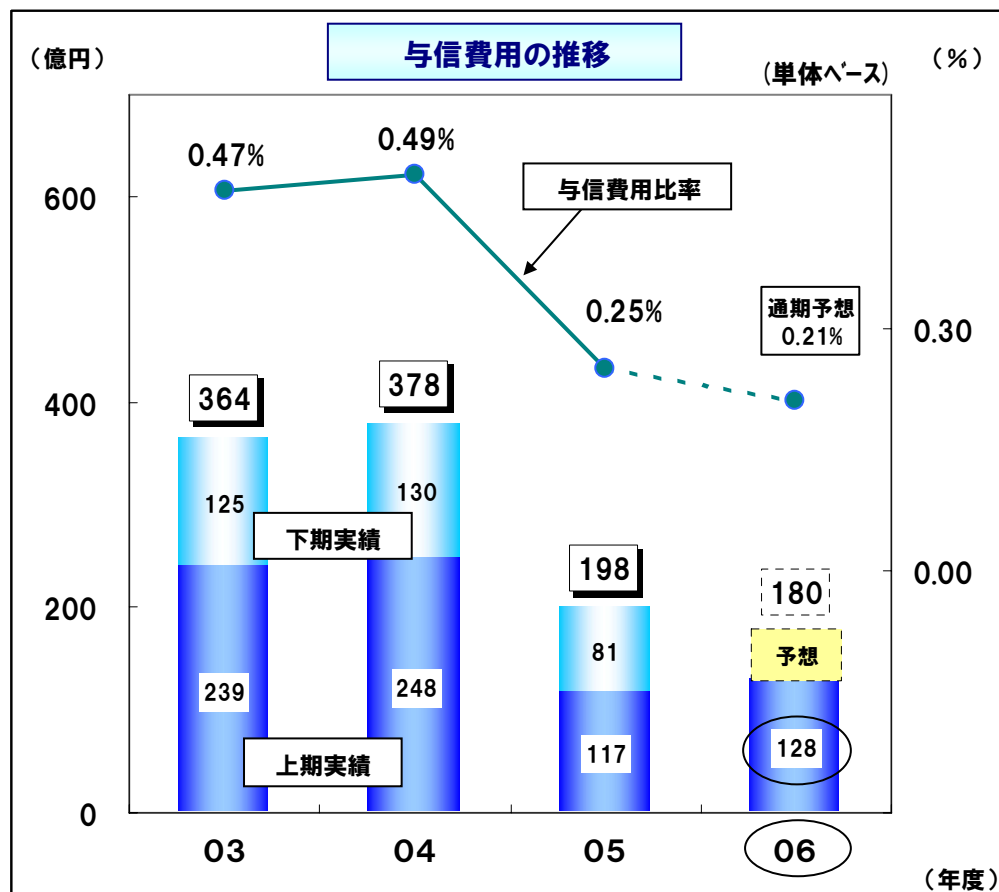
	05上期 (実績)	06上期 (実績)	増減
業務純益 (一般貸引繰入前)	586	581	△5

「業務純益」の増減要因
 業務粗利益の増加: +9億円
 経費の増加: △13億円

1. 当行の業績

(4) 与信費用

- 06年度上期の与信費用は、前年同期比+11億円(+9.4%)の128億円。
- 06年度の予想与信費用は、180億円(前年度比△9.0%)、与信費用比率は0.21%の予想。



前年同期との比較

(単位:億円)

	05上期 (実績)	06上期 (実績)	増減
与信費用	117	128	+11
地価下落要因	39	19	△20
債務者区分要因	144	145	+1
区分劣化	176	161	△15
区分改善(△)	32	16	+16
回収・取崩要因(△)	85	59	+26
その他	20	23	+3

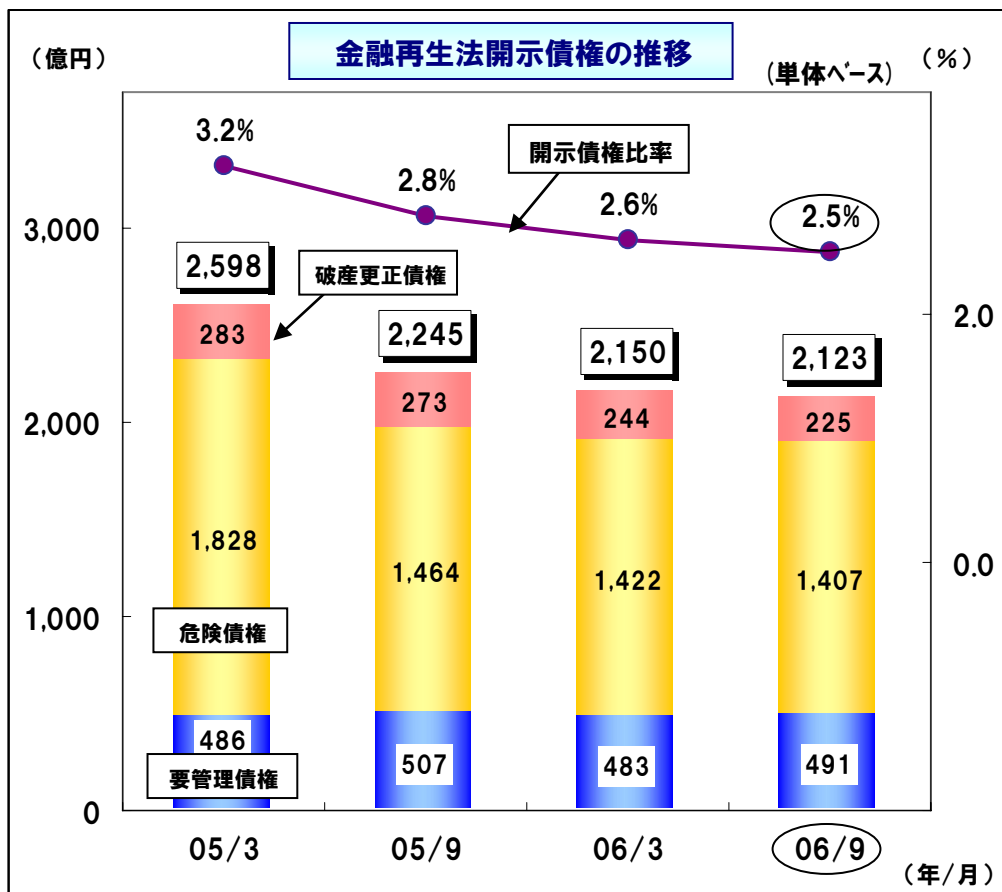
(注1)与信費用=不良債権処理額+一般貸倒引当金繰入-貸倒引当金戻入益

(注2)与信費用比率=与信費用÷貸出金平残

1. 当行の業績

(5)不良債権比率

- 06年9月末の不良債権比率は、**2.5%**まで低下。
- 不良債権額も着実に減少。



前年同期との比較

(単位: 億円)

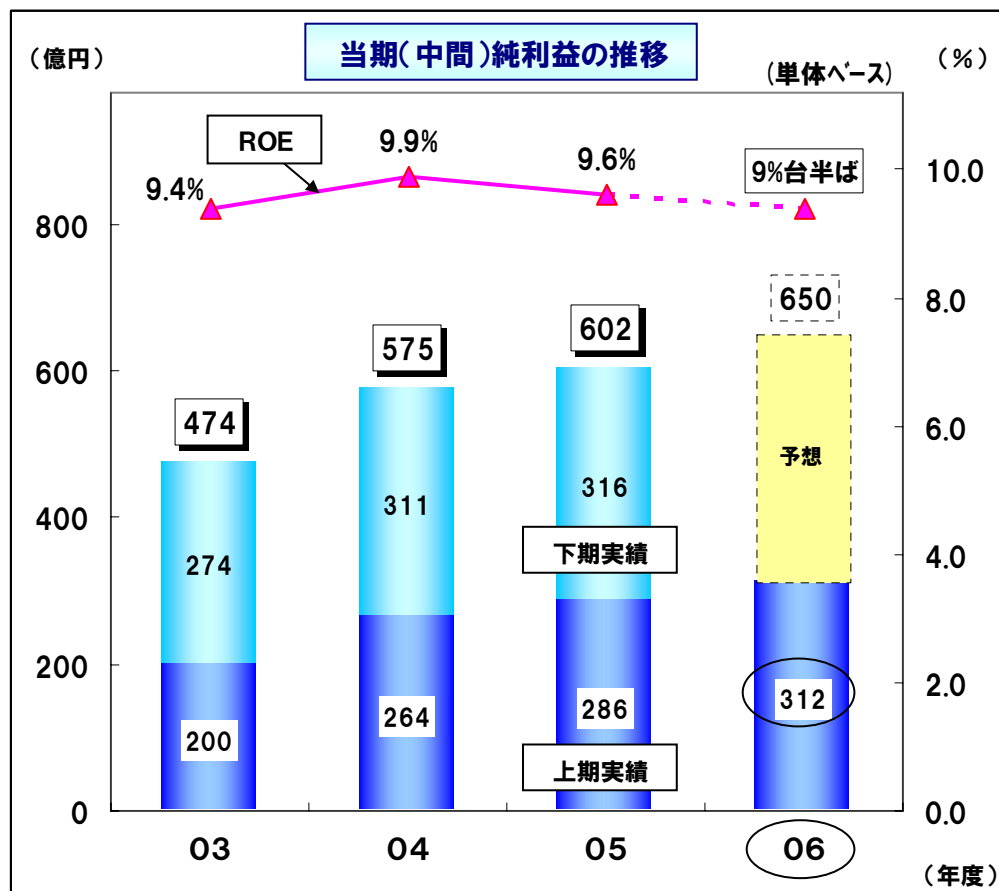
	05上期 (実績)	06上期 (実績)
危険債権以下合計の増減	△ 374	△ 34
新規発生	+ 204	+ 329
オフバランス化	△ 578	△ 363
回収・返済等	△ 185	△ 135
業況改善	△ 190	△ 24
直接償却・債権流動化等	△ 203	△ 204

(注)オフバランス化とは、上記の各要因により危険債権以下の残高が減少すること。

1. 当行の業績

(6) 当期(中間)純利益

- 06年度上期中間純利益は、**312億円**(前年同期比**+26億円**、**+9.3%**)。
- 06年度の予想は、**650億円**と前年度比**+48億円**(**+7.9%**)。
- 06年度のROEは**9%台半ば**を見込む。



(注)ROE = 当期純利益 ÷ 純資産(平均)

前年同期との比較

(単位:億円)

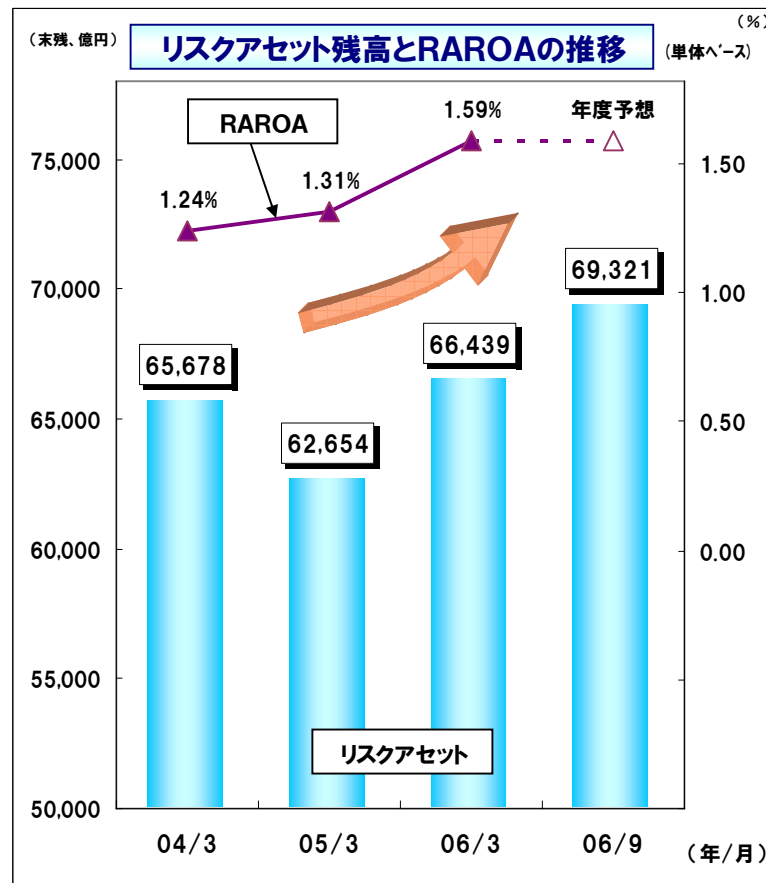
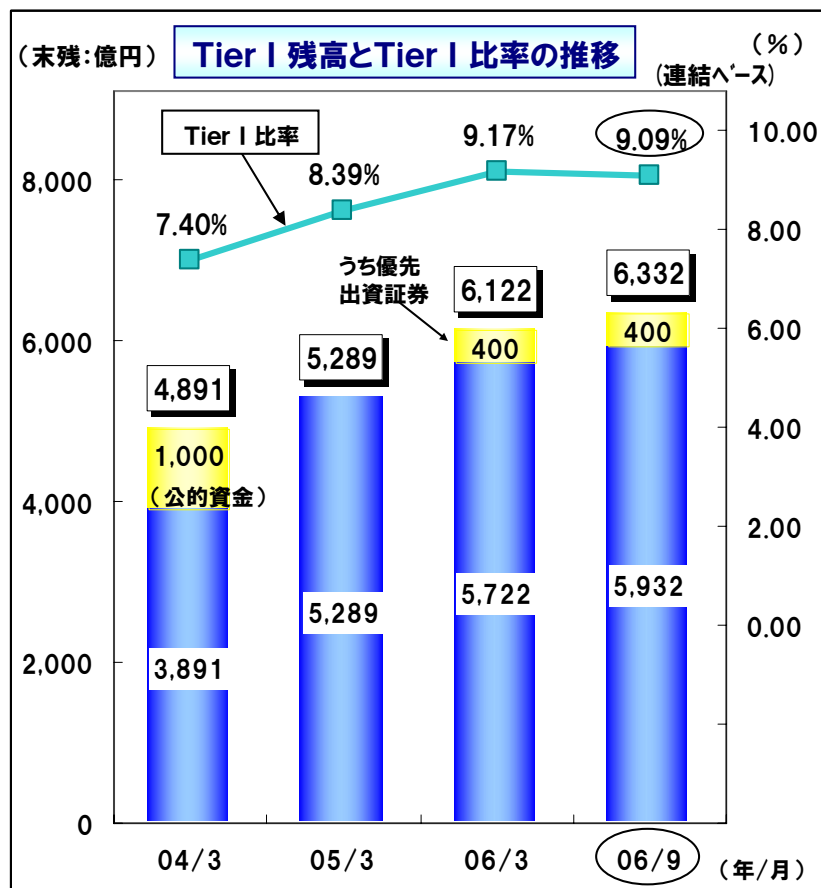
	05上期 (実績)	06上期 (実績)	増減
中間純利益	286	312	+26

「中間純利益」の増減要因
 業務純益の減少: △5億円
 与信費用の増加: △11億円
 株式関係利益の増加等: +42億円

1. 当行の業績

(7) Tier I 比率

- 06年9月末(連結ベース) : Tier I 比率 **9.09%**、自己資本比率 **10.45%**。～Tier I 比率のターゲットは、9%以上。
- 06年度上期にリスクアセットは**8.6%**(年率)増加。今後も資本を活用し、収益の拡大を図る。



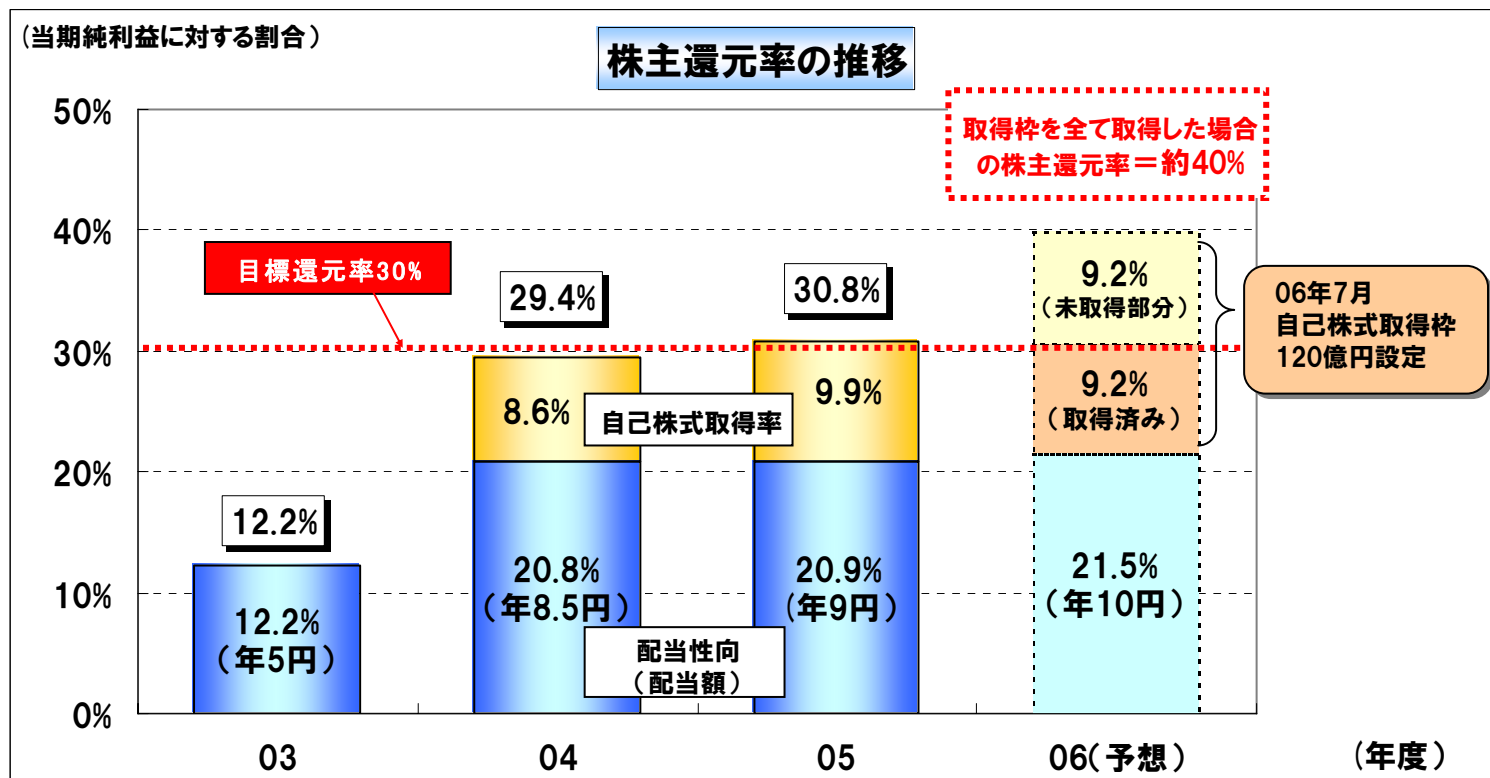
(注1) RAROA = (業務純益(一般貸倒引当金繰入後) - 与信費用) ÷ (期首リスクアセット + 期末リスクアセット) / 2

(注2) リスクアセット: 各期末残ベース

1. 当行の業績

(8) 株主への利益還元策

- 配当金については、従来の安定配当の考え方を維持しながら、業績連動型の配当方式を導入。
 - ① 普通配当金: 04年度末より、1株当たり年**7円**(安定配当部分)
 - ② 特別配当金: 年度当期純利益が**500億円**を上回る場合に、その超過額の**30%**を目途に支払い
(業績連動部分、05年度実績は**2.0円**、06年度は**3.0円**を予想)
- 自社株取得については、今後も継続的に実施し、株主還元率(配当+自社株取得)**30%以上**を目標とする。
- 06年度より、中間配当を復活。(配当額は、普通配当金年間予想額の**50%**である**3.5円**。)



(注)06年度の自己株式取得実績は06年9月30日現在

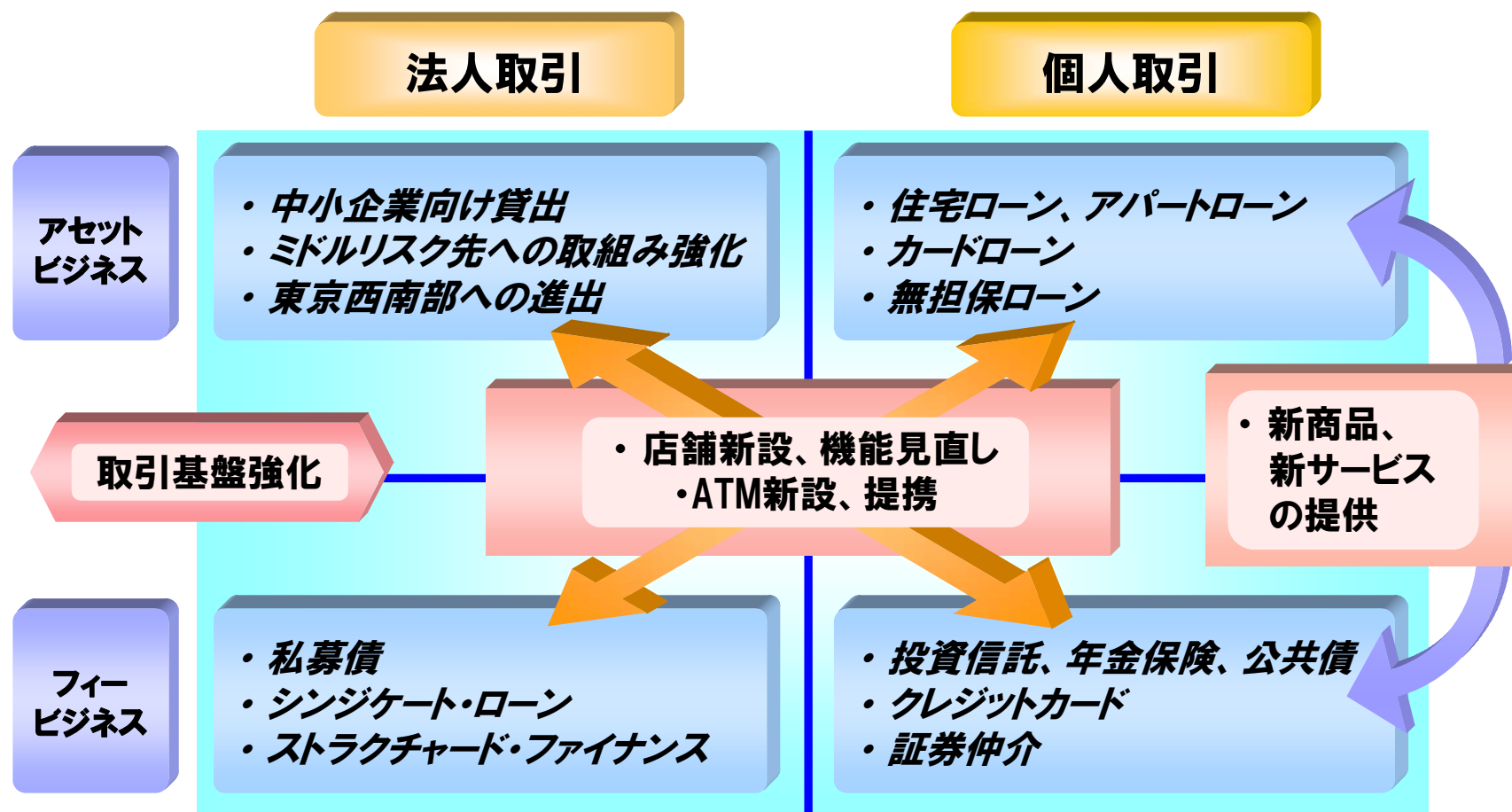
2. 営業部門の実績

横浜銀行
Bank of Yokohama

2. 営業部門の実績

(1) 営業戦略の全体像

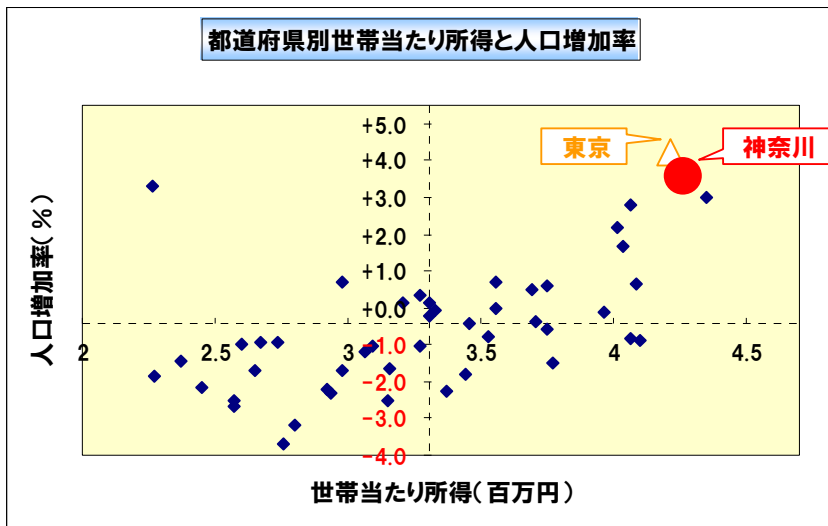
- 基本戦略:リージョナル・リテール戦略に特化。
- 取引基盤強化により、アセットビジネス、フィービジネスのさらなる拡大を図る。



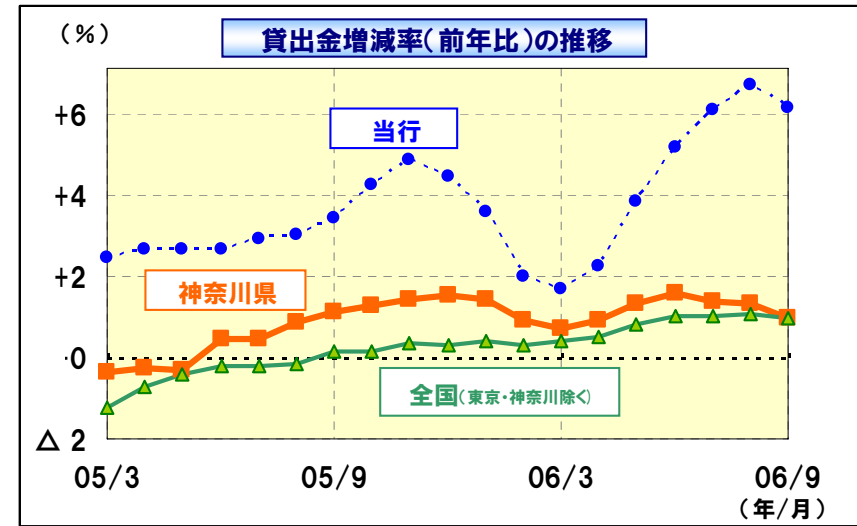
2. 営業部門の実績

(2) 神奈川県マーケットの成長性

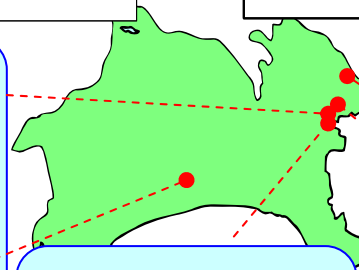
- 世帯当たり所得、人口増加率ともに国内2位の恵まれた経済環境のもと、数多くの開発プロジェクトが進行中。
- 県内でのシェアアップ、東京西南部への出店効果等により高い貸出金増加率で推移。



※世帯あたり所得は個人所得指標(2007年版)より
 ※人口は国勢調査2000-2005



※日銀統計「都道府県別貸出金」および当行資料より作成
 ※増減率は3ヶ月移動平均ベース



● 横浜駅東口



● 羽田空港再拡張



● さがみ縦貫道路



● MM21 地区



● 川崎駅西口

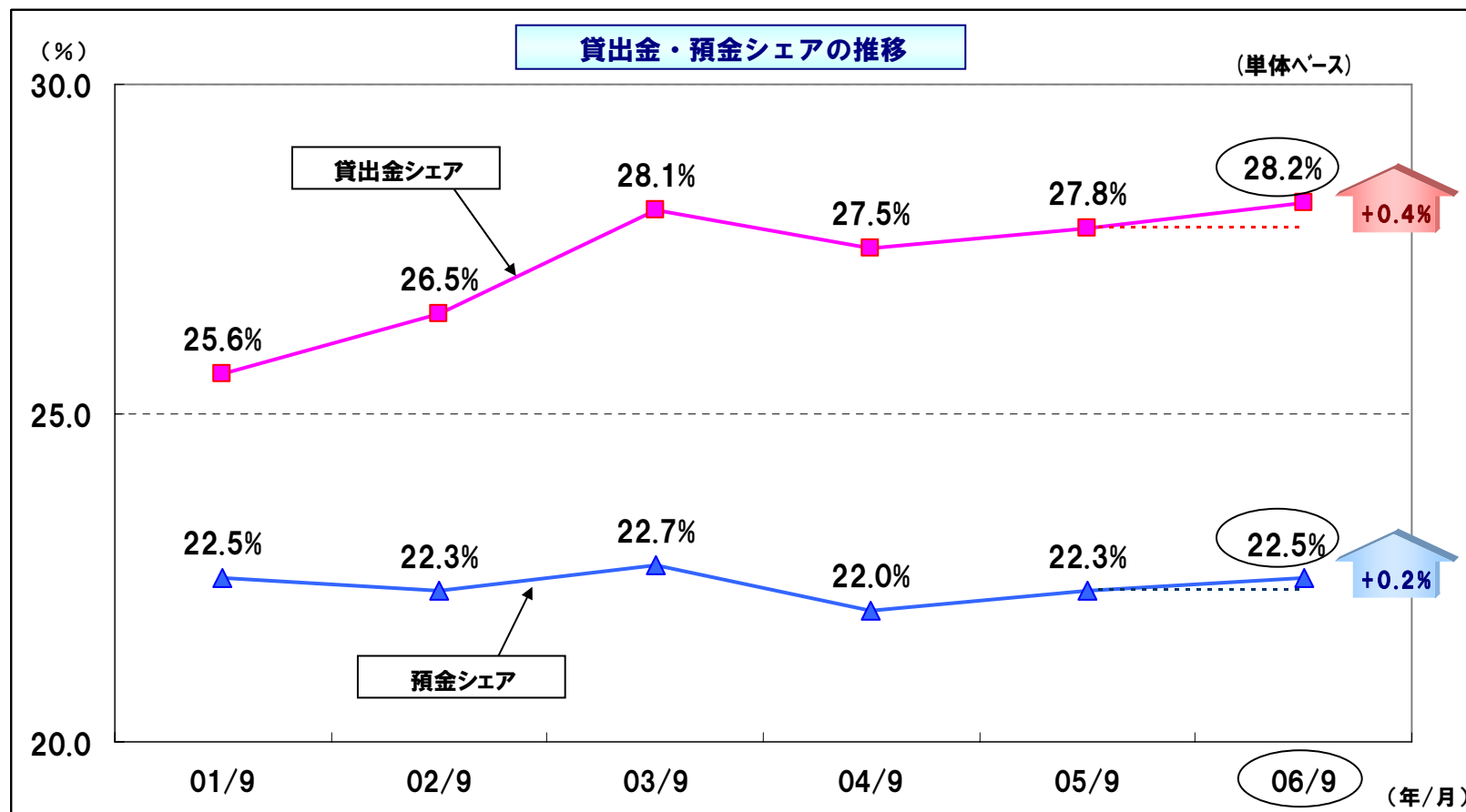


※上依知監督官誌所ホームページより

2. 営業部門の実績

(3) 神奈川県内シェアの推移

- 06年9月末: 貸出金シェアは**28.2%**。預金シェアは**22.5%**。
- 競争激化の状況の中で、貸出金は前年同期比**+0.4%**、預金は**+0.2%**とシェアアップ。

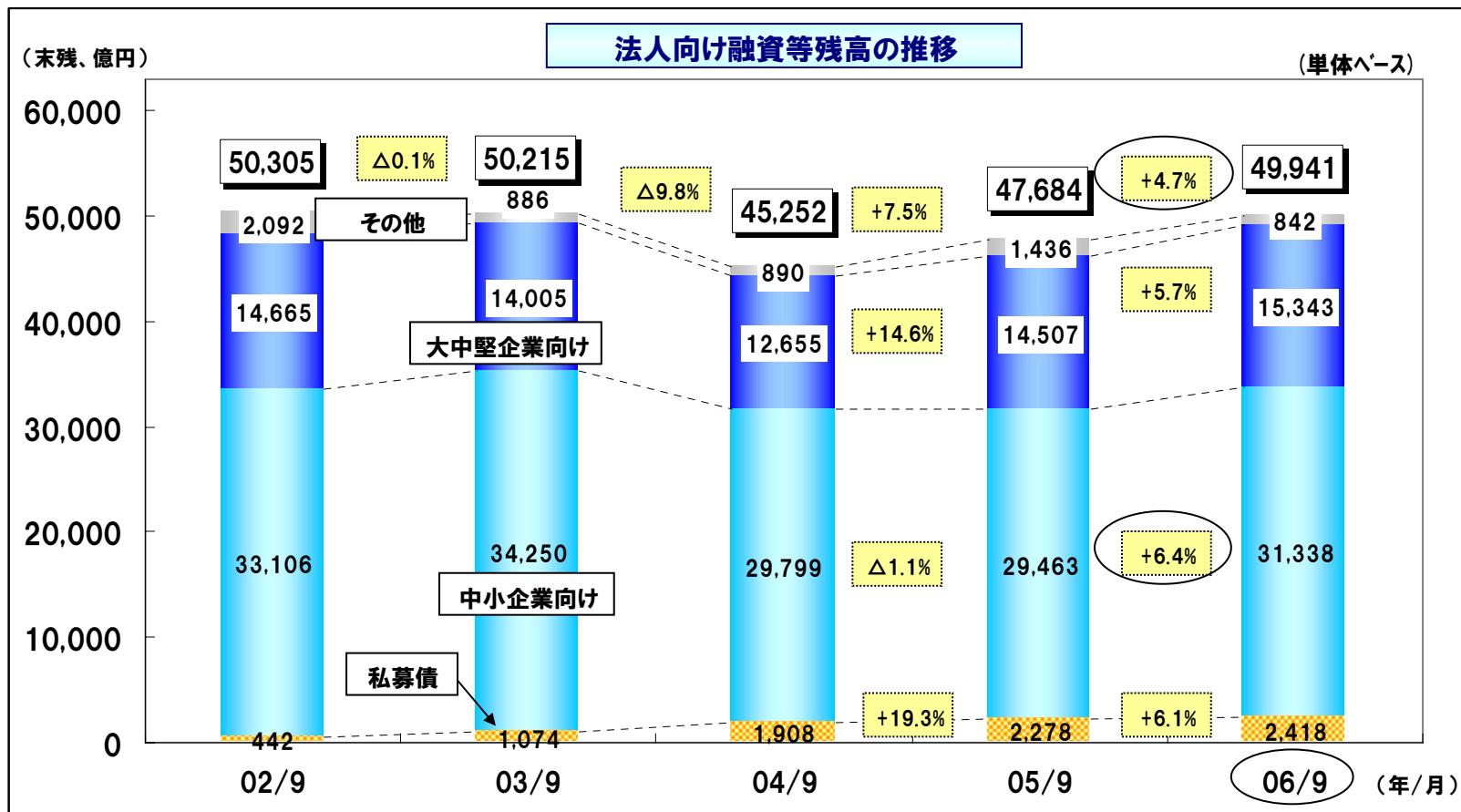


(注) 当行調べ

2. 営業部門の実績 ～アセットビジネス(法人)

(4)法人向け融資残高の推移

- 06年9月末:法人向け融資残高は、私募債を含め前年同期比+4.7%増加(前年同期比+2,257億円)。
- 中小企業についても、増加基調へ転換(前年同期比+6.4%)。

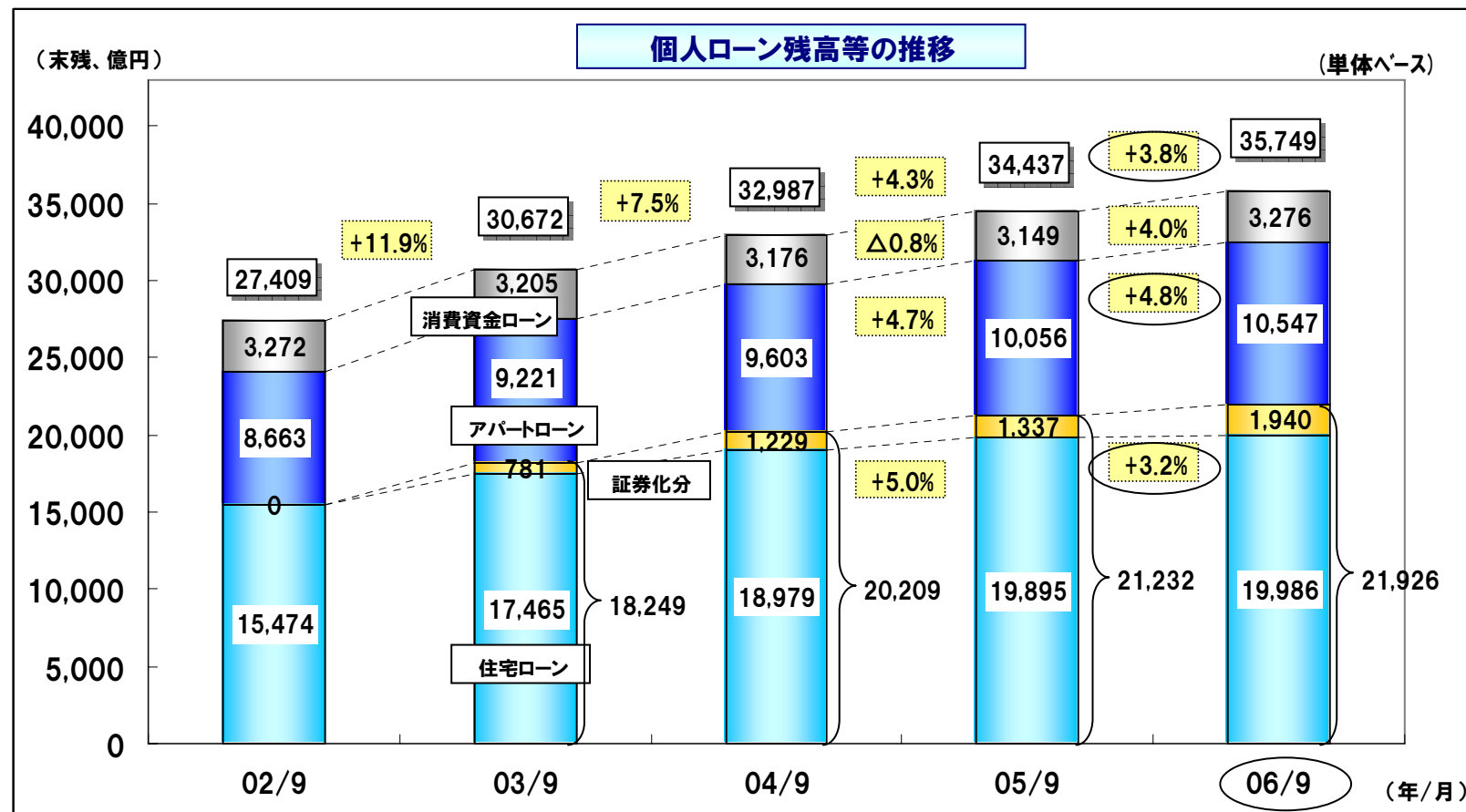


(注)その他=公共向け貸出等

2. 営業部門の実績 ～アセットビジネス(個人)

(5)個人ローン残高の推移

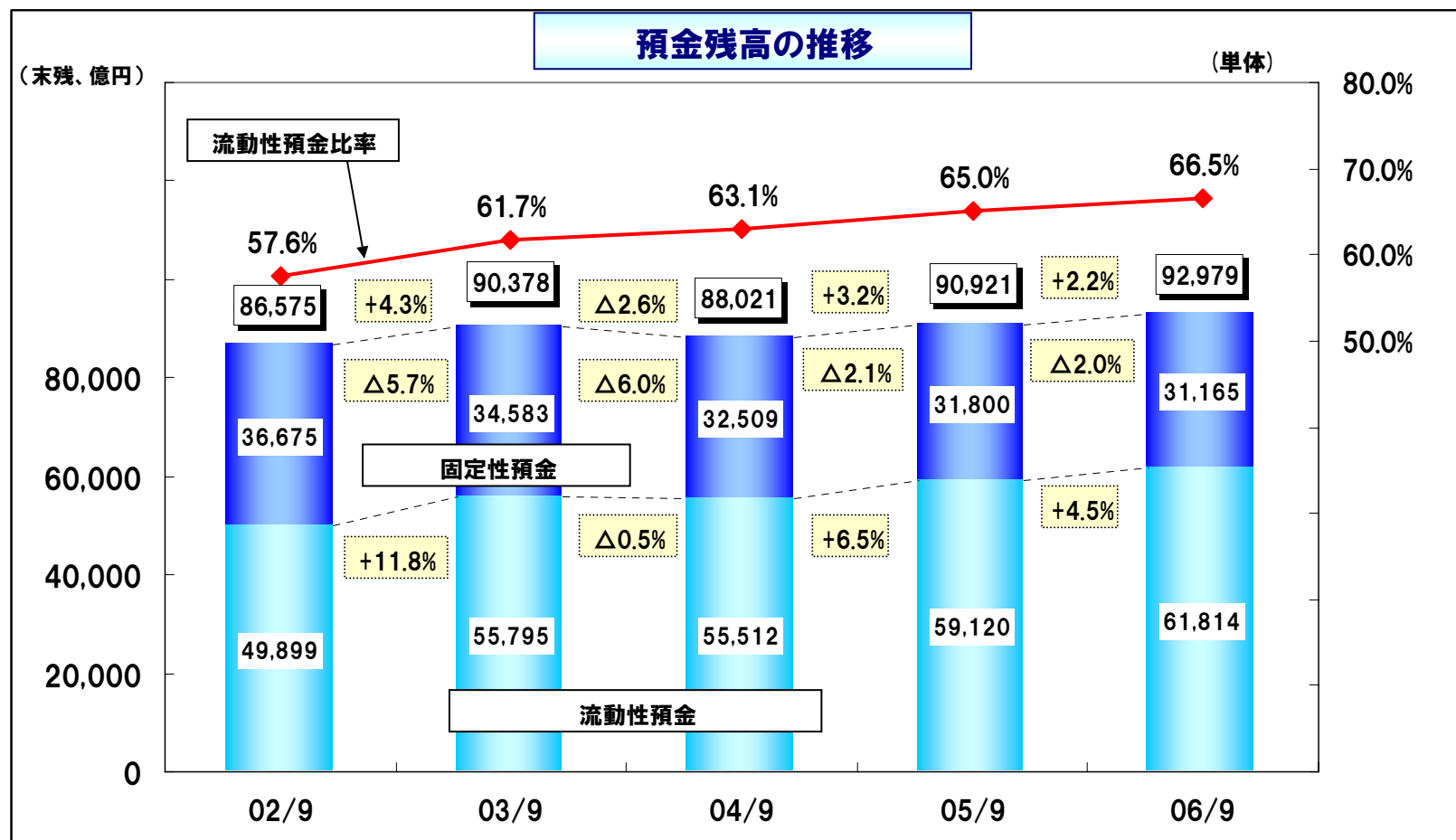
- 06年9月末:競争環境が激化する中、引続き増加基調を維持(前年同期比+3.8%)。
- 住宅ローンは前年同期比+3.2%、アパートローンは前年同期比+4.8%と好調。



2. 営業部門の実績～アセットビジネス

(6) 預金残高の推移

- 06年9月末:総預金残高は前年同期比+2.2%と、増加基調を維持。
- 流動性預金比率は66.5%と、流動性預金残高は着実に増加。(地銀平均は約54%)



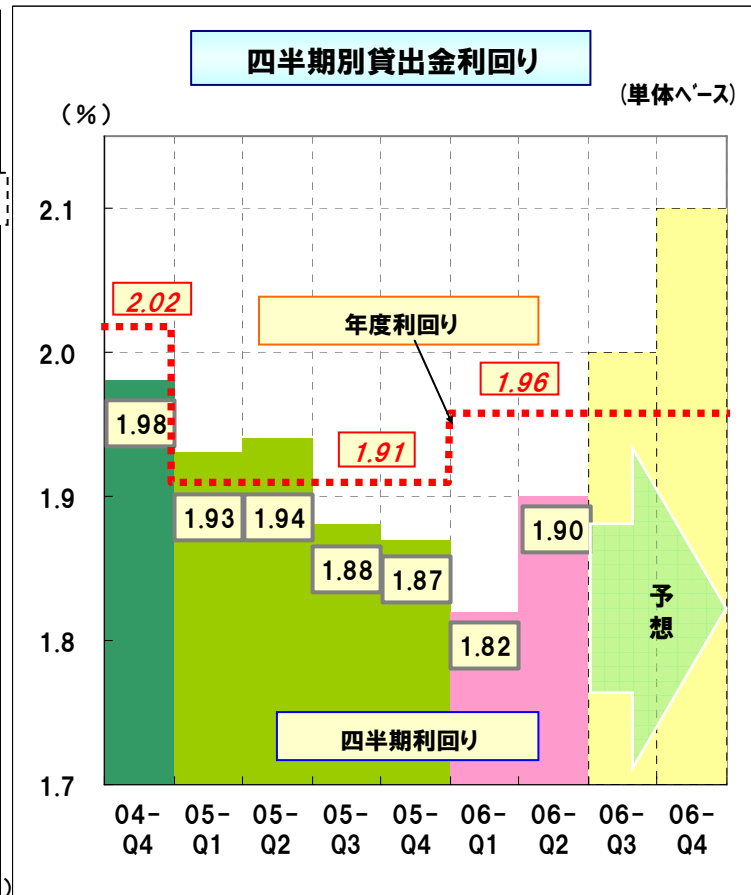
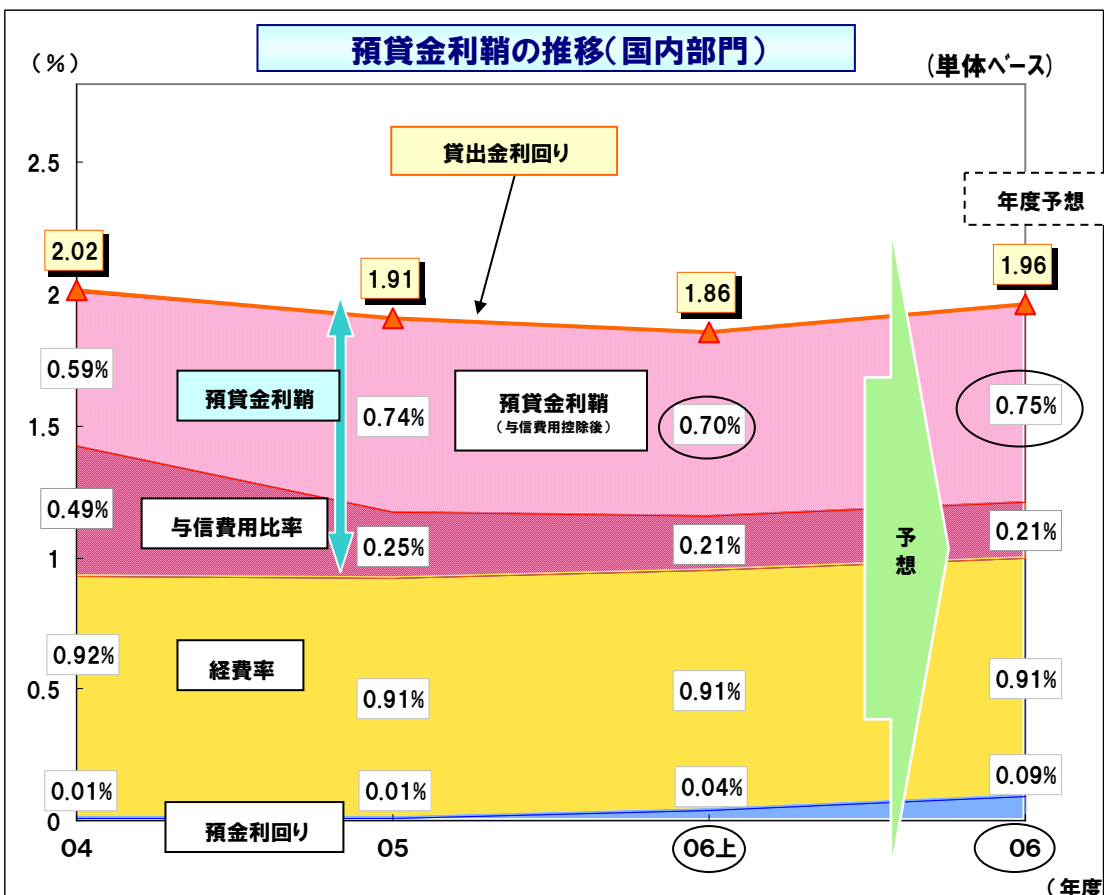
(注1)流動性預金＝当座＋普通＋貯蓄＋通知＋別段＋納税(NCD含まず、外貨・非居円含む)

(注2)固定性＝定期預金(外貨・非居円含む) <特別国際金融取引勘定を除く国内店分>

2. 営業部門の実績 ～アセットビジネス

(7) 預貸金利鞘の推移

- 06年上期: 預貸金利鞘(与信費用控除後)は0.70%へ低下するも、通期では0.75%へ拡大する見込み。
- 貸出金利回りは06年度第2四半期で反転しており、通期では1.96%まで上昇する見込み。



(注1) 対象残高＝国内業務部門の預貸金平残
 (注2) 経費率＝経費(除く臨時経費)÷預金平残
 (注3) 与信費用比率＝与信費用÷貸出金平残
 (注4) 06年度上期の与信費用比率は年度換算の予想値

2. 営業部門の実績 ～アセットビジネス

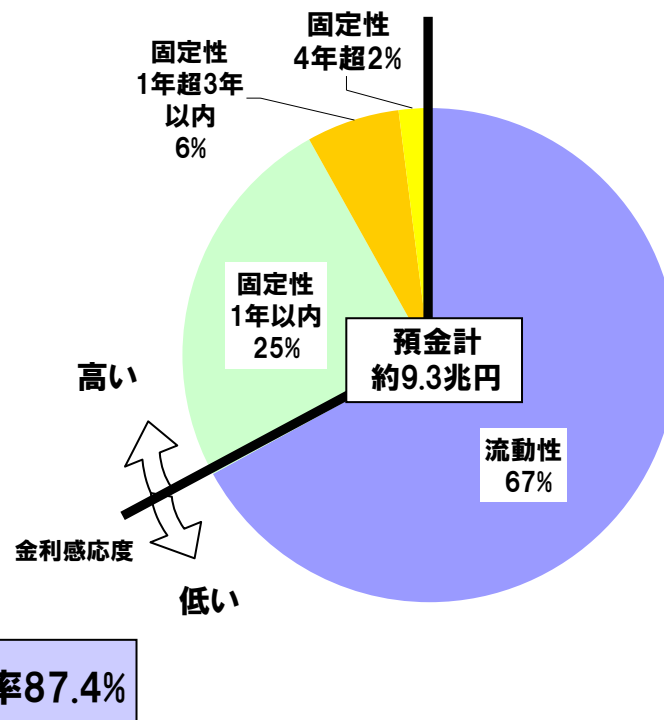
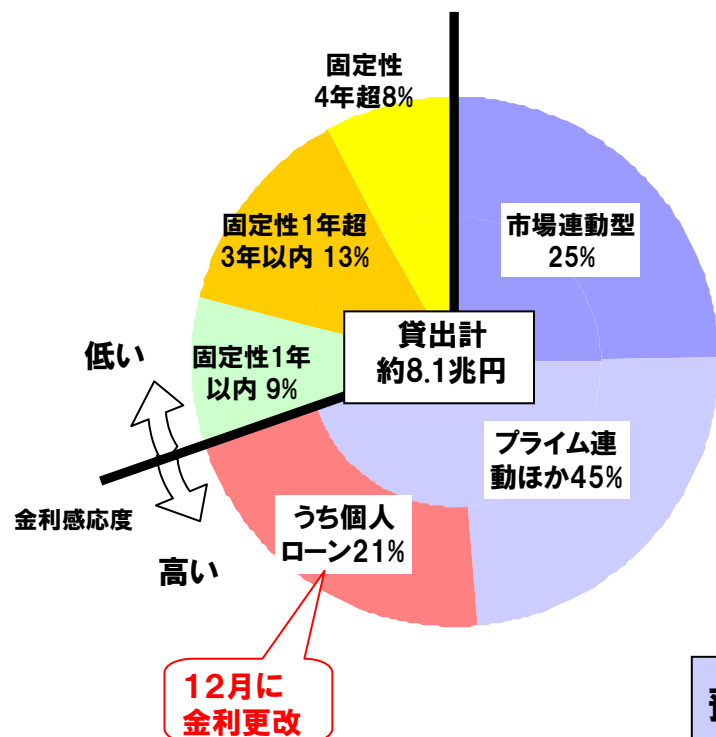
(8) 預貸金の種類別金利感応度

- 運用サイド(貸出金)に比べ、調達サイド(預金)の金利感応度が低いため、金利上昇時には利鞘拡大に寄与。
- 06年12月に個人住宅系ローンの金利更改を控えており、06年度下期の利鞘は拡大傾向。

2006/9末時点

運用サイド

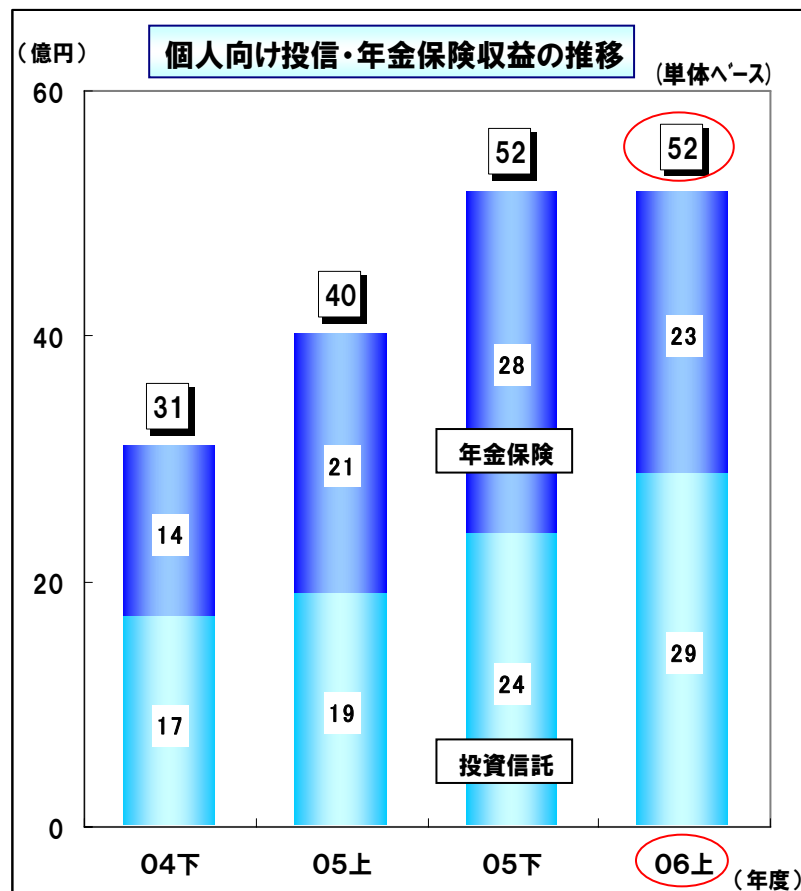
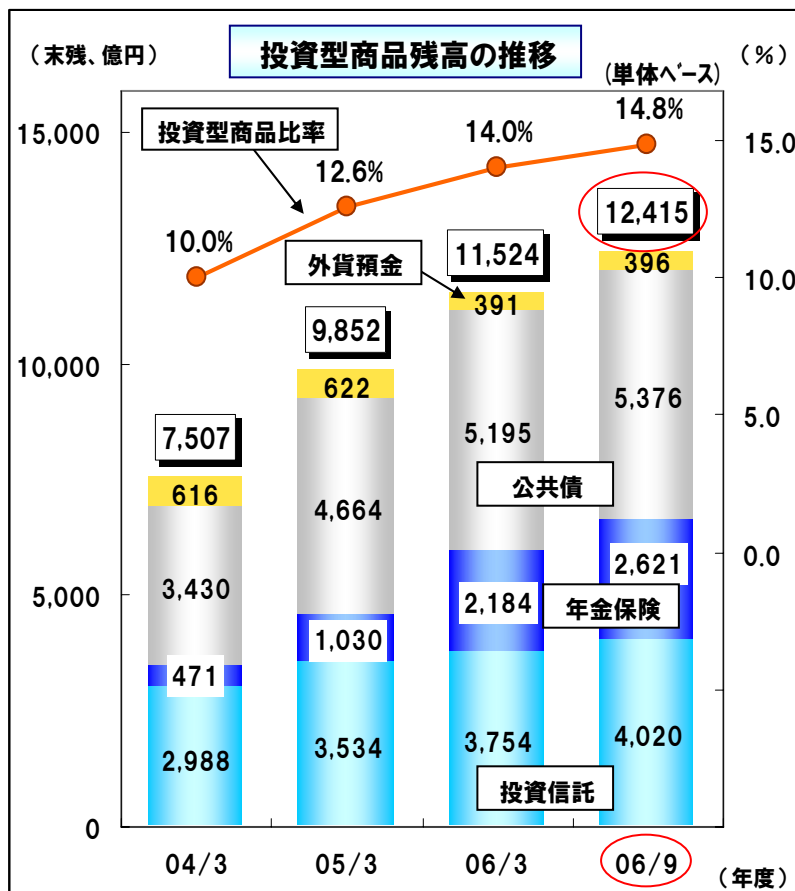
調達サイド



2. 営業部門の実績 ～フィービジネス(個人)

(9) 投資型商品残高・収益の推移

- 06年上期: 投資型商品残高は堅調に推移し、**1兆2千億円**を突破。投資型商品比率は**14.8%**へ。
- 個人向け投信・年金保険収益は前年同期比**+12億円**。

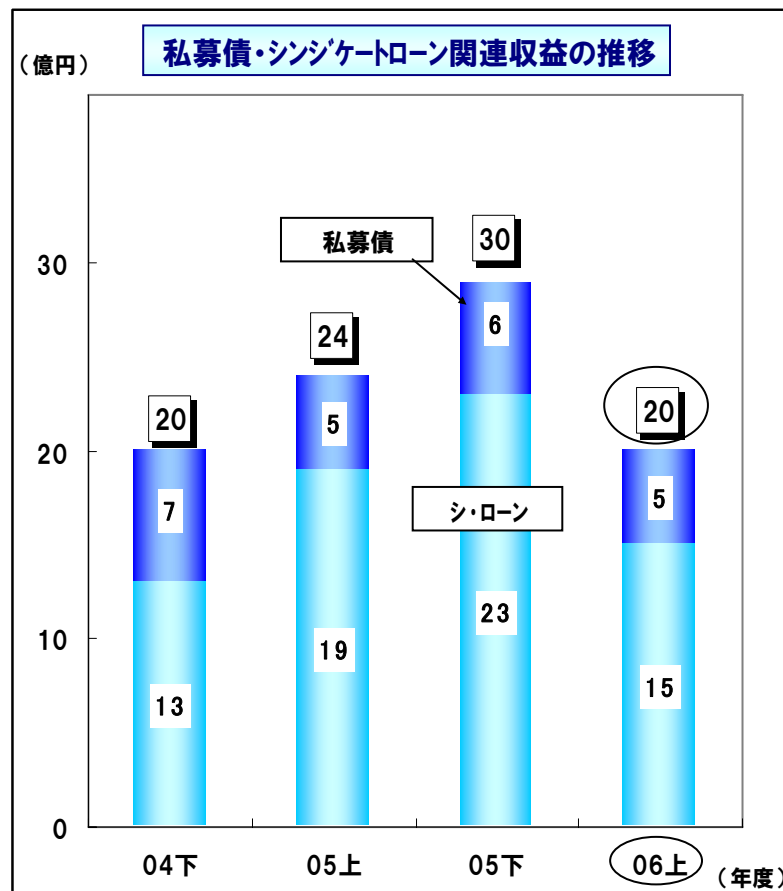
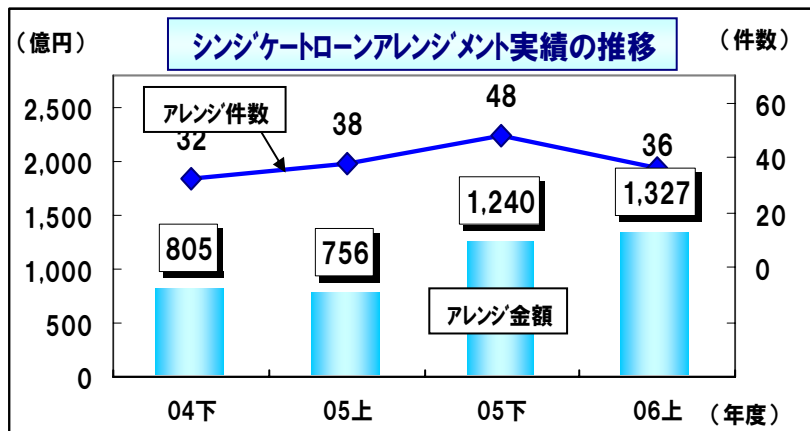
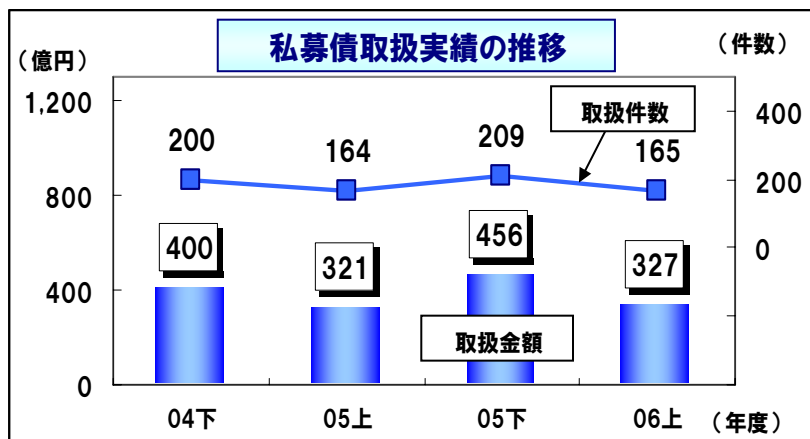


(注) 投資型商品比率 = 個人投資型商品末残 ÷ (個人預金末残 + 個人投資型商品末残)

2. 営業部門の実績 ～フィービジネス(法人)

(10) 私募債・シンジケートローンの推進

- 06年度上期: 一般貸出への注力によりシローン件数は減速するも、**15億円**の収益を確保。
- 私募債は、前年同期比でほぼ水準を維持。



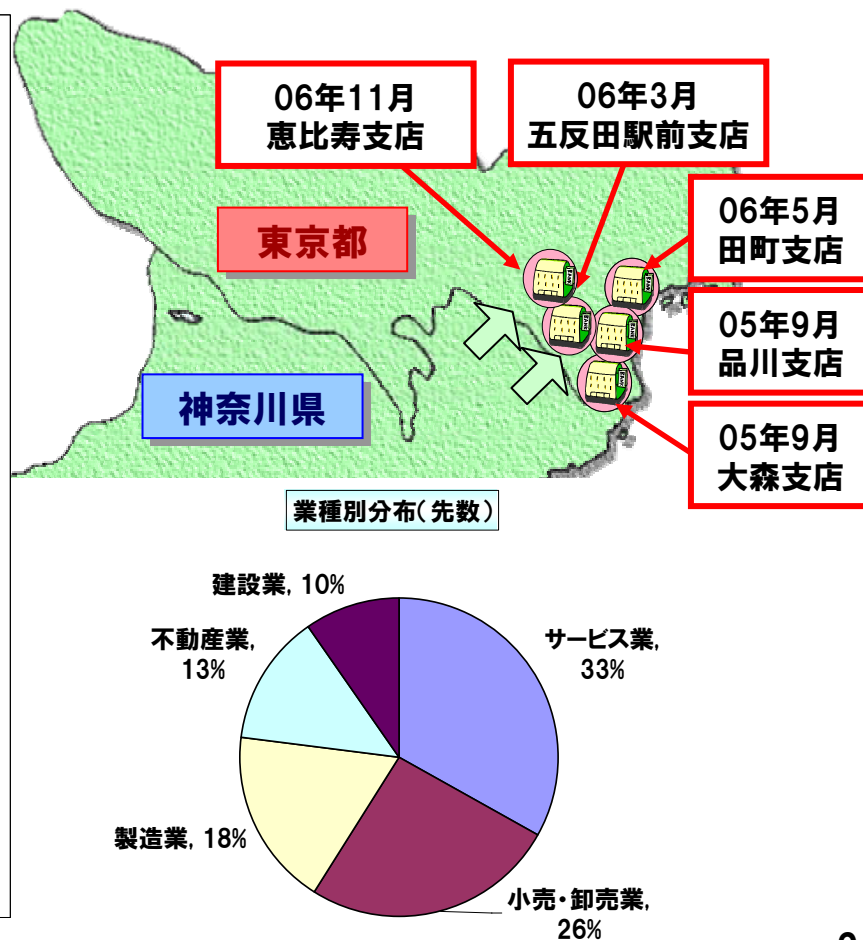
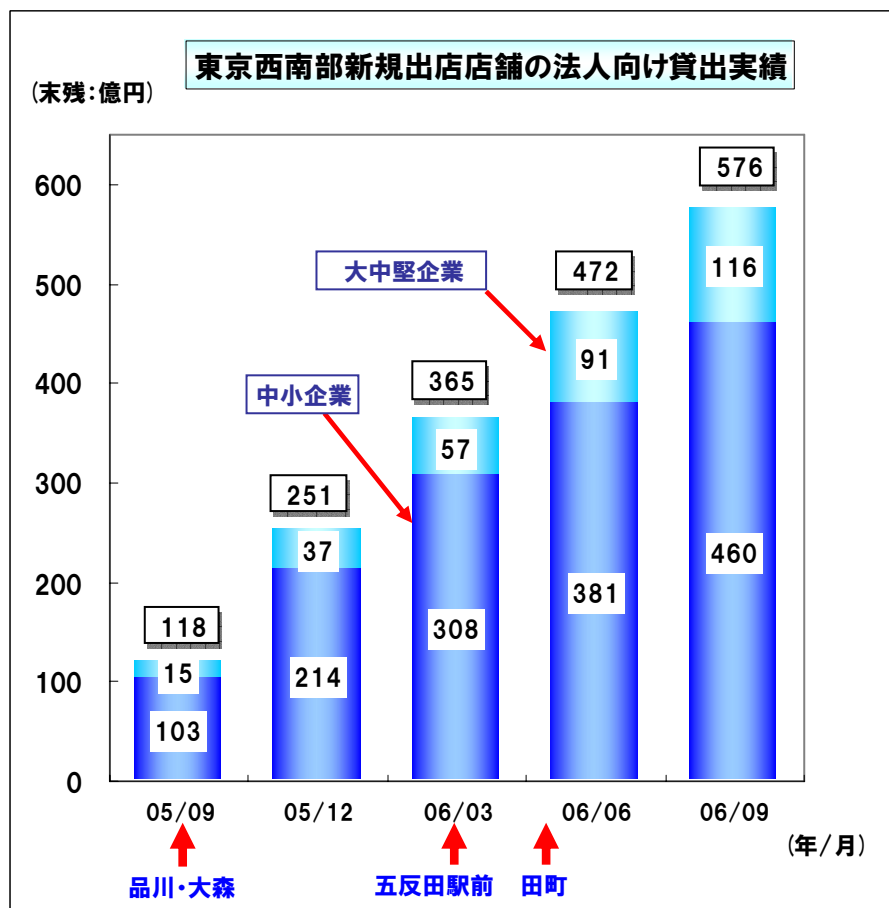
(注)シンジケートローンには、コミットメントライン関連手数料を含む

3. 事業戦略

横浜銀行
Bank of Yokohama

(1) 東京西南部への進出

- 企業集積度の高い東京西南部への積極的な出店により、面の営業を展開。⇒中小企業貸出の増強が目的（05年度から07年度の3年間で合計10か店を出店・貸出残高の目標は3年後で**2,000億円**）
- 06年9月までに4か店を出店済み。06年11月にさらに1か店（恵比寿支店）出店。
- 新店舗合計の06年9月末貸出残高は想定以上のペースで**576億円**まで到達。



(2) 神奈川県内のサービスチャネルの充実

- 新規出店、出張所の支店化により、個人向け営業拠点を拡充。
- 07年1月には、富裕層向けに「横浜プレミアムラウンジ」を開設予定。
- さらに、既存店舗のリニューアル、コンサルティングブースの設置等を順次実施し、投資型商品の販売力アップを図る。

(出張所の支店化)

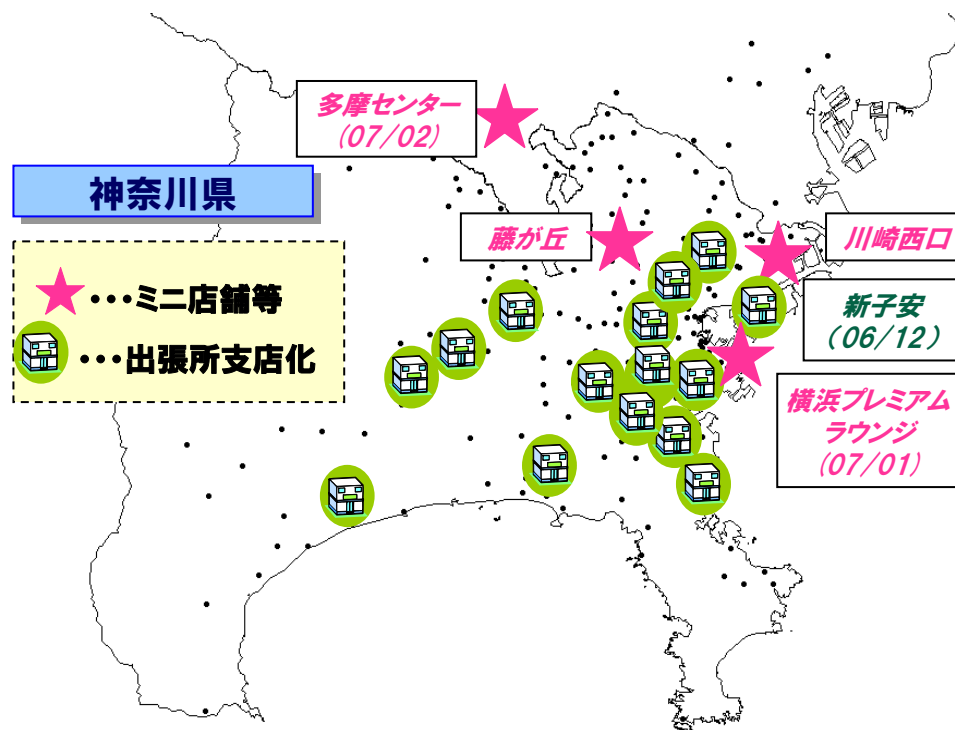
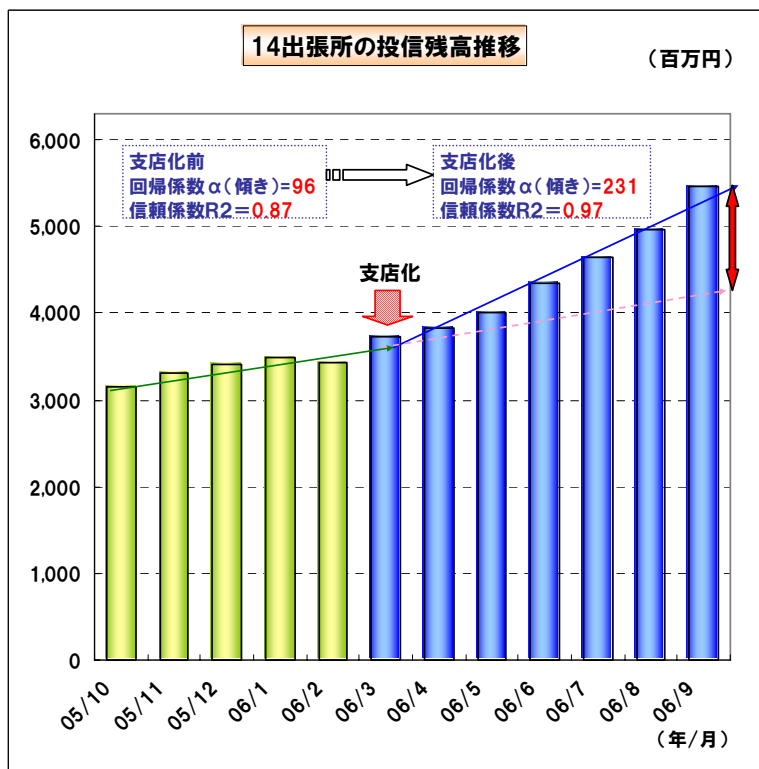
- ・06年3月 14出張所を支店化
- ・新子安出張所を支店化(06/12 予定)

(ミニ店舗等の出店)

07年度までに10か店程度
(2か店出店済)

(既存全店舗のリニューアル)

店質に合わせ全店舗をリニューアル、
コンサルティングブースの設置等を実施。(05年度26か店実施済み)

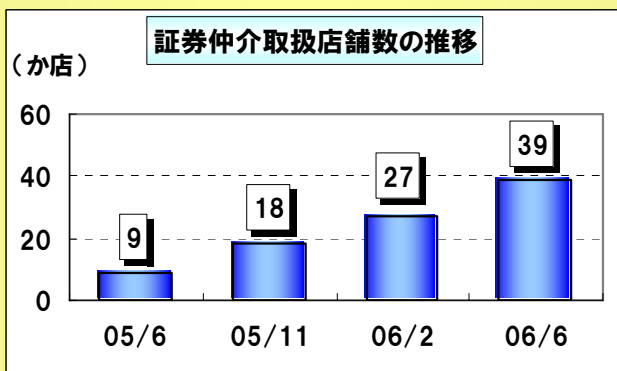


(3) 新たな業務・新サービスの展開

- 投資型商品の人気の高まりを受け、証券仲介取扱店舗を拡充。06年9月には**39か店**へ。
- バンクカードの商品性を改善。会員数は堅調に増加。

証券仲介業務の展開

- **提携証券会社**
日興コーディアル証券株式会社
- **取扱業務**
外国債券等売買の媒介、株式、口座開設の受付
- **展開スケジュール**
06年9月には計39か店へ
今後も順次増設



バンクカードの増強

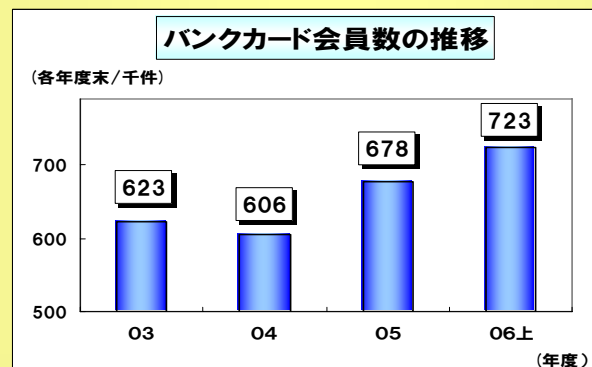
《 従来⇒1枚で4つの機能》

- キャッシュカード
- 国際クレジットカード
- ローンカード
- デビットカード

07年度より
**電子マネー
機能を追加**



※JR東日本との提携による
ビュースイカー体型カード



(4) 提携の概要～05年度以降

- 商品・サービス分野を中心に、他社との提携を順次実施。
- 今後、各種の分野で提携戦略を拡大し、営業力の強化・コストの削減の両面から収益向上につなげていく。



(5)「Go Forward!」の進捗状況

- 05年4月に策定した3ヵ年の中期経営計画「Go Forward!」は、1年半が経過し、大半の目標達成にメド。
- 環境変化を踏まえ、1年前倒しで07年度より新中計スタート予定。

目標とする経営指標	07年度目標	06年度	新中期経営計画 (07年度～)
リテール貸出残高※1	69,000億円以上	65,147億円 (06/9)	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提携の拡大による機能の強化 ● 人財育成強化 ● 横浜ブランドの確立 <p>↓</p> <p>収益基盤のさらなる強化</p>
個人投資型商品残高※2	14,000億円以上	12,415億円 (06/9)	
当期純利益 (連結)	600億円以上	655億円 (年度予想)	
ROE (連結)	10%程度	9%台半ば (年度予想)	
OHR	40%程度	41%程度 (年度予想)	
Tier I比率 (連結)	9%程度	9.09% (06/9)	
目指す姿			
株式時価総額	1兆円以上	約1.3兆円 (06/9)	
格付け	AA格以上	A+ (R&I)	

※1 中小企業向け貸出+個人向け貸出残高 ※2 公共債含む未残

事前に株式会社横浜銀行の許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。